

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2018/07 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集1 学問の「本質」を究める ◆

3年生は最後の高体連、最後の湖陵祭が終わりました。後は受験のみです。湖陵祭明けの夏休みについて卒業生からいろいろと話を聞きました。

成功

- ・毎日10時間、コツコツと勉強する
- ・あれも、これも、ではなく、基礎基本を中心にできることを確実に学び、理解していく
- ・好きな教科は好きなだけ究め、苦手科目は時間を決めて取り組む

失敗

- ・切り換えがうまくいかず、規則正しく生活できなかった
- ・基礎基本は理解できたことにしてしまい、標準以上の問題ばかりチャレンジする（4ステップだと、B問題を中心に演習してしまった）
- ・各科目の目標点が漠然としすぎて、何となく勉強してしまった
- ・センター試験の過去問だけをやる

3年生には6月8日（金）の進路説明会で話しましたね。まずは10時間。自分自身で考えたオリジナル計画でドンドン取り組んでいきましょう。センター試験は過去問ばかりやっても力は付きません。あくまでも基礎・基本です。それだけで7割は取れるんです。

もう一つは各教科、何点を取るかを明確にすること。その点数を取るための勉強をしてください。あとは自分を信じてやっていくだけです。

どの学年でもそうですが、学問を学ぶ、ということはただ単純に暗記すればいいものではありません。高校受験ではそれが通用したことでしょう。塾に通い、片っ端から丸暗記しまくっていた生徒も多かったのではないのでしょうか。

しかし、大学受験では全く歯が立ちません。歴代の湖陵生は自分でそれを悟り、勉強の仕方を自分なりに変えていきました。

では今の生徒はどうでしょうか。何となく分かっているのに中学時代と同じ勉強を続けている、そんな生徒が多いと思います。

学問の「本質」を究めようとすれば、それだけ深く物事を学ぶことになりそこでようやく「理解」したことにつながるのではないのでしょうか。その結果が勉強を「楽しむ」ことにも結びついてくるはずです。早く本物の「学び」を味わってください。

◆特集2 夏休みのポイント ◆

夏期講習

「寝坊してしまったので、午後の部活動から参加しよう」などという甘っちょろい考え方では、とうてい受験では戦いきれない。休むことなくきちんと受講することが大切である。講習内容は、担当の教員が特に必要と考える内容がつままっているはずである。重要な内容を一気に学習する好機である。3年生は人生最後の夏期講習にすべく、がんばれ。

夏期講習の復習

夏期講習の復習も大切である。復習とは、家で解答集等を見ずに解き直したり、辞書や資料集などを使って確認したりすることだ。それを実行するからこそ、力がつくのである。ここで陥りやすい罠がある。学校の講習も学校外の講習も生徒が理解できるように説明がなされる。その場では、「わかった」感じがするからこそ、「わかったんだから復習はいらない」と思っている高校生が多い。わかったと思っているものを、きちんと答案として自力で「解けるかどうか」をもう一度、同じ問題に挑戦してみることを通して確認する。それが復習だ。

テキストのやりっ放しは中学生にでもできる。中学生は大学には行けない。つまり中学生の時

と同じ勉強の仕方や勉強時間では、大学受験に失敗する。こんなことははじめからわかっていることだ。もう一度、自分の勉強方法・時間を見直そう。

普段の遅れを取り戻す

苦手な科目や練習量が足りていない科目は誰しもある。日頃、足りないことに取り組むいい期間である。数学が苦手だから、数学の「〇〇」という分野を集中的にやろう、などのように決めて学習しよう。

夏期講習が終了した日とその次の日

夏期講習がなにゆえ、夏休みの最初にあるのか。なにゆえ、普段とほぼ同じ時間から始まるのか。それにはきちんとした理由がある。

夏期講習が大切とはいっても、講習ですべてのことが勉強できるわけではない。その後の夏休みの勉強の「きっかけ」という要素があることを覚えておいて欲しい。講習に出ることによって、自分の弱点が見えたりすることもあるだろう。自分の勉強計画を変更しなければならないかもしれない。夏期講習は残りの夏休みを勉強面で意味あるものにするために、夏休みの最初に置かれている。

時間についてもはわかるだろう。生活のリズムを整える意味もある。

これらのことから、

①夏期講習の最終日、家に帰って勉強しないのは、もってのほかである。ここからを有意義にするための「きっかけ」なのに、「きっかけ」として利用していないからである。

②夏期講習が終了した次の日、部活動に入部していない人、あるいは部活動が午後から始まる人が、朝ゆっくり寝て、午前中まったく勉強しないというのも、「きっかけ」として利用していない。なかなか言うように簡単にはいかないのは十分承知で、それでも敢えて言う。講習終了の次の日も、部活動が午前中にある人を除いて8：40～勉強してみよ。実行できた人は、次の日もできる。それが「きっかけ」としての使い方である。

スマートフォン等

携帯電話・スマートフォンなどに使う時間が多すぎる。とにかく多すぎる。得なくてもよい情報にまみれると疲れるだけである。そこで疲れても勉強時間が減らないタフな人はどれほどいるのか。そんなことで、勉強時間を減らすことは、自分が自分の夢から遠ざかっていることを意味する。

3年生は1日10時間を継続

1日の学習時間は、集中できるならば、もっとやった方がいい。でもと言う人は、10時間は勉強しよう。本当は時間だけではなく「質」も重要なので、勉強を積み重ねて来た人は、自分のペースで継続させればよい。ここでは、いままで、勉強が不足していた3年生についてである。10時間というのは、なんとなくだらだら10時間机に向かっているという意味ではない。休憩等の時間を除いて10時間できるかどうか、挑戦してみよ。ただし、まだ部活動を引退していない人もいるだろう。その人にとって、10時間は無理だと思う。しかし、時間はなくても勉強はできる。「計画」で勝負である。時間がすくなくのに、なおかつ行き当たりばったりの勉強では、勝ち目はない。部活動をやりつつ、勝ちたいならば、やることを少し整理したり、家に帰ったあと、何から勉強するのか、きちんとイメージすることが大切である。以下の計画について、必ず実行してほしい。

進路そのものを考えよう

夏休みは「進路」そのものについて考えるよい期間です。保護者の方ともジックリ時間をかけて話してみましょう。時間がたくさんあります。有効に使って下さい。

★特集3 共通テストを考えよう（前回の続きです）

生物 辻先生

1. 大学入学テストで問われている思考力・判断力・表現力

生物は、現行の入試でも「思考力・判断力・表現力」を問う問題が多かった。センター試験も「知識・技能」と「思考力・判断力」をバランスよく出題されていた。そのため、「大学入試共通テスト」でも、センター試験とそれほど変わらない出題方針で問題が作成されると考えられる。この前提に立って、大学入試共通テストで問われる「思考力・判断力・表現力」を考えると、データを分析する能力だけでなく、さまざまな方向性の思考力が問われる。

高大接続改革では、分析的に思考する力だけでなく、複数の思考を統合して運用する力を育成

する方針が繰り返し提示されてきた。探究活動（課題の設定→仮説の設定→検証計画の立案→観察・実験の実施→結果の処理→考察・推論→新たな課題の設定・・・の一連の過程）を自ら行う能力の有無が問われる。つまり、

- ・客観式の試験で表現力が問われる → データをもとにグラフを描き、そのグラフをもとに考える。
- ・より正確に思考力・判断力・表現力を評価できるようにする
- 解答形式を工夫することで、より正確に思考力をはかる（選択肢に関して正答数を指定せず「すべて選べ」という形式にしたり、あるいは単純に選択肢の数を増やしたりするなどの変更が行われる可能性がある。

2. 試行調査（プレテスト）問題分析
（1）大学入試センター試験との比較

現行のセンター試験と比較すると、知識・技能を問う問題の比率が低く、考察問題の比率が高くなっている。考察問題の難易度がセンター試験よりも高い問題が多く、関東で正解とする設問もあるため、全体的な難易度はセンター試験よりもかなり高い。出題分野の傾向としては、従来のセンター試験でも出題が多い「生物の進化と系統」からの出題が多いほか、「生体と環境」の単元からの出題も多く、また、センター試験ではあまりみられない、1つも大問に複数の分野の内容が含まれている問題が多い。

（2）個別試験（一般選抜）との比較

現行の個別試験にも「思考力・判断力・表現力」を問おうとしている問題が出題されているが、その多くが客観式ではなく記述・論述式の問題であるため、個別試験の問題に試行調査の問題とよく似ているといえるものはあまりない。

3. 試行調査問題から見えること

今回の試行調査で出題された問題は、あくまで検証のためでのものであるが、科学的な探究の過程を重視した、思考力・判断力を問おうとする意欲に満ちた問題が出題されていた。しかし、全国規模で行われた大掛かりな調査であるにも関わらず、高校3年生が60分で解答することに配慮した難度と分量にはなっていなかった。本来はもっと盛り込まれるべき知識・技能を問う問題が少なかった。

4. 大学入試共通テストを踏まえた個別試験（一般選抜）のあり方

センター試験が共通テストに変わることで自体が、各大学の個別試験の内容を大きく変えることになるとは考えにくい。共通テストと個別試験を併用して入学希望者の選抜を行う場合、センター試験から共通テストへの試験の内容の変化に合わせて、個別試験の内容が変化する可能性はある。しかし、個別試験における論述問題や描図問題などにより、入学希望者の論述力や表現力などを直接測ることの重要性は変わらない。

5. 今後の指導

試行調査の問題では、現行のセンター試験と出題形式や難度が似ている問題も多く出題された。知識問題や「与えられたデータを分析して考察する」タイプの考察問題がこれに当てはまる。しかし、現行のセンター試験ではほとんどみられない「実験案や適切な実験手順について考察する」タイプの考察問題もいくつかみられた。また、要求される知識は基本的であるが、それに基づいて考える考察問題の難度が高く、正誤の判断がつきにくい問題も多かった。

このような問題に対する対策として、これまでのように教科書レベルの知識を体系的に理解することが重要であることに変わりはないが、それに加えて、教科書の観察実験や探究活動に関する内容に注目し、精通しておくことが今まで以上に重要になる。また、表現力を問う方向性の問題や、会話文などを用いてさまざまな考え方を吟味するようなタイプの問題などが増加する可能性が考えられるので、その対策として、グループで議論してその結果を発表するなどの取り組みも有効になると考えられる。

ただし、今後も、従来からある、知識・技能を問う問題や、文章やグラフで示されたデータを知識・技能を運用して考える考察問題が、共通テストにおいても出題のかなりの割合を占めると思われるので、いたずらに新しいタイプの考察問題ばかりに気を取られずに、まずは基本的な問題の演習を重ねることが重要である。

地理 本間先生

1, 大学入学共通テスト（いわゆる新テスト）で問われている思考力・判断力・表現力
新テストにおいて問いたい「思考力・判断力・表現力」については

①事象について位置や分布からとらえ考察することができる②事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる③地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる④地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察されることが出来る⑤地域的特色について多面的・多角的に考察することができる⑥地理的な課題について多面的・多角的に考察し、解決策を合理的に構想（選択・判断）することができる⑦地理的事象を多角的・多面的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめる事ができる、の7つとなっている（番号は河合塾による）。

2, 試行調査（プレテスト）問題分析（受験する生徒は公開されているプレテストを解いてみて下さい。）

- ・解答形式や素材形式では近年のセンター試験と大きな変化は見られないが、問題形式は会話文が多用され、生徒が調べた課題やプレゼンテーションの資料などアクティブラーニング型の授業に関連させたものが多い。
- ・過去三年の地理Bの平均点は63.5点だが、プレテストの平均点は51.3点であった。
- ・上記の「思考力・判断力・表現力」の項目別設問数と正答率について、最も正答率が高かったのは⑦の74.3%で、低かったのは②の36.6%と⑥の35.5%であった。

②の例としては第1問の間3で、会話文、熱帯収束帯（＝赤道低圧帯）の位置と河川が記された図、河川の年流出高と流量が最大になる月の表からナイル川のデータを選ばせるものであった。これは、与えられた河川の流量が最も多くなる月の知識を問うているのではなく、「流域が熱帯収束帯の影響下にある時期に河川の流量が増える」、ことと、②の“事象が生起している場所の特徴をとらえ考察”、則ち、ナイル川流域の気候＝BW（砂漠気候）であるという特徴もとらえ、結びつけて考える問題であった。同じく問4では、3地点の景観写真を組み合わせるものであったが、これは、基本的な植生の知識と、与えられた図の熱帯収束帯の位置を結びつける思考力・判断力が問われた。

また、第5問の間4は④の例であり、防災施設の写真と地形図に示されたその位置の分布から、施設の目的や役割を選ばせるものであった。問題自体の難易度は高くないと思うが、問題文の「すべて選べ」という形式が受験生を迷わせた。微妙な選択肢だと選ぶのが難しくなるだろう。

3, プレテスト問題から見える課題

「主に問いたい資質・能力」とする「知識・技能」とは、教科書に書かれている内容（普通の授業で扱われる知識）であり、「思考力・判断力・表現力」とは、教科書では具体的に示されていなくても、“与えられた資料を読み取り、相互の関係を考察することで正解を導き出す力”と思われる。現行のセンター試験でも「思考力・判断力」がなければ解けない問題は多く見られたが、知識と技能の線引きは曖昧であった。しかし、今回の試行調査でははっきり示された。「すべて選べ」という問題形式については、難しい面もあると考えられ、今後の試行調査でどうなるか注視したい。また、他の教科・科目や社会との関わりを意識した内容については、今回の試行調査では見られなかった。

4, 今後の指導

- ・今回の試行調査では、会話文を多用したり、ポスター形式の文章問題を出題するなど、出題形式はアクティブラーニングやプレゼンテーションを意識したものであったが、問われている内容自体は現在のセンター試験で問われているものと変わりが無い（すでに現行のセンターでも知識だけでは解けない問題が多数ある）。
- ・これまでも言われてきたように、知識・技能の定着はもちろんであるが、どの分野においても、地図帳や統計、資料集などを多用し、資料の読み取りや様々な事象についての考察を多く行うことが重要。そして答えを覚えるのではなく、考えるプロセス（過程）や与えられた知識から法則性を見つけ、一般化して考えるなどの取り組みを普段の授業で行いましょう。